

健康福祉委員会資料

(健康福祉局関係)

2 所管事務の調査（報告）

（1）葬祭場で発生する残骨灰の処分方法について

資 料 1 葬祭場で発生する残骨灰の処分方法について

令和8年1月29日

健康福祉局

葬祭場で発生する残骨灰の処分方法について

1 残骨灰について

残骨灰とは・・・

御遺体を火葬し、御葬家の収骨後に残された小さな御遺骨や、棺、副葬品を由来とする灰等の総称

- ・ 歯科治療材料を由来とする金や銀等の**有価物が含まれている**ことがある
- ・ 六価クロムや水銀等の**有害物質が含まれている**ことがある

2 法律上の位置づけ

残骨灰の取り扱いについては「墓地、埋葬等に関する法律」等においても**明確な定めがない**
所有権は地方公共団体に帰属（昭和14年 大審院判決）

3 川崎市での現在の取扱

南部斎苑、北部斎苑合わせて年間約30tの残骨灰が発生
指定管理者が市内の業者と契約し、**有償で処分を委託**

- ・ 業者において残骨灰中の御遺骨を選別し、埋葬、供養
- ・ 御遺骨以外の灰は業者において無害化、選別のうえ処分

4 他都市の状況

全国20政令指定都市のうち、**17市において残骨灰（有価物）の売却を実施**

他都市での実績（令和6年度火葬実施分）

横浜市：約2億5000万円　千葉市：約9,400万円　さいたま市：約9,200万円

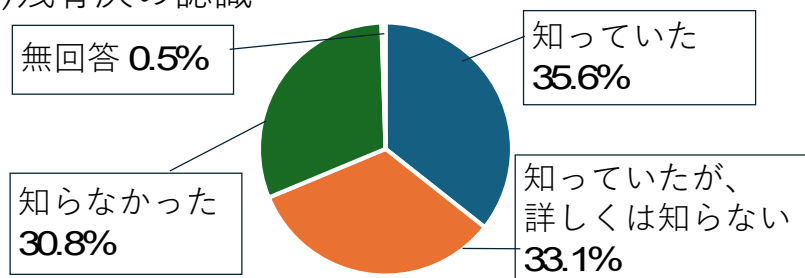
5 市民の意識調査について

「令和7年度第2回かわさき市民アンケート」にて、残骨灰について調査を実施

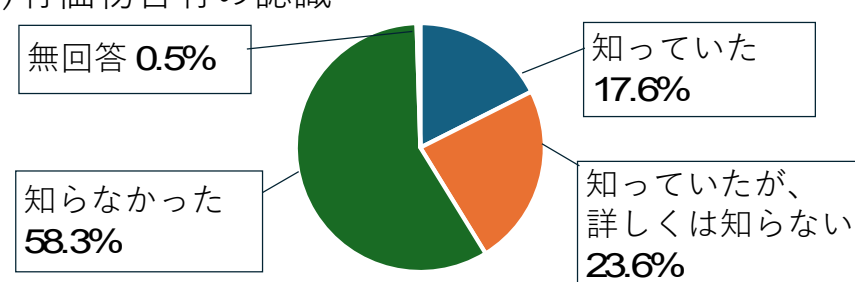
【単純集計速報値】

- ・調査対象：川崎市在住の満18歳以上の個人
- ・調査方法：郵送調査
- ・発送数：3,000標本（有効回答数 1,592標本（有効回収率 53.1%））
- ・調査内容（1）残骨灰の認識（2）有害物質含有の認識（3）有価物含有の認識
（4）他都市での売却実施の認識（5）川崎市での売却実施への意見

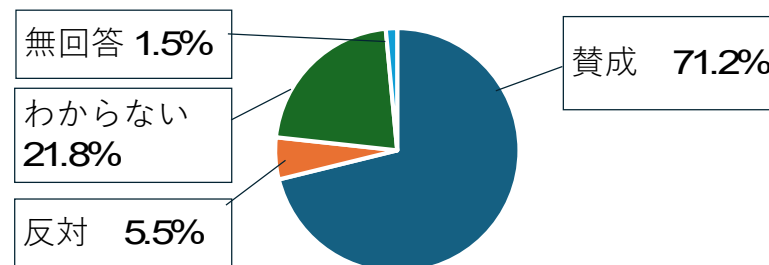
(1) 残骨灰の認識



(3) 有価物含有の認識



(5) 川崎市での売却実施への意見



- 約7割の市民が**残骨灰について認識**
- 約4割の市民が**残骨灰に有価物が含まれていることを認識**
- 本市での売却について**約7割が賛成**

6 令和8年度からの取組

●競争入札により条件付きの売却の実施を想定

- 主な条件
- ・ 御遺骨を埋葬・供養すること
 - ・ 有害物質等については関係法令を遵守し、適切に除去、処理すること
 - ・ 有価物採取量、廃棄物処理の状況を報告すること

●歳入見込

令和6年度の12歳以上の火葬実施件数×他都市における落札額

13,849件×約8,000円＝約1億1千万円

葬祭場運営経費に充当し、葬祭場の運営、整備に活用予定

●効果

市民意見の反映による有価物の価値の市民への還元

希少資源の有効活用

●スケジュール

令和8年1月	2月	3月	4月
議会報告	入札手続（指名競争入札） 業者決定・事業開始準備		事業開始